

SHIMIN PHOTO

市民フォト

鹿児島



NO.70

平成9年10月1日発行

わがまち 上空 散歩



宇宿上空から

写真中央部に広がる水田と住宅。ここは現在区画整理が進む宇宿中間地区です。昭和三十年代は中央を蛇行する脇田川に沿って一面水田地帯でした。その後、周辺の団地開発が進み環境は変化、住宅も次第に増え、より快適な住環境の整備が望まれるようになりました。宇宿中間地区の区画整理は平成十三年度の事業完了を目標に現在着々と進行中です。

発が始まり、市内最初の大規模団地として注目を集めました。現在、約二万五千人の人々が生活しています。写真奥の海岸線に目を移してみると、左手から県庁、鴨池港区、中央港区（旧南港区）と見えます。中央港区では現在の人工島造成などが計画されています。



宇宿中間地区の上手に広がる台地は紫原団地。昭和三十年代半ばから開

区画整理にウォーターフロントの開発。十年後これらの地域はどのように変わっているのでしょうか。

CONTENTS

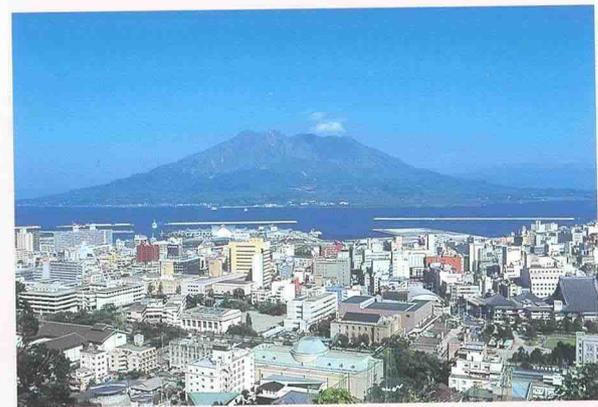
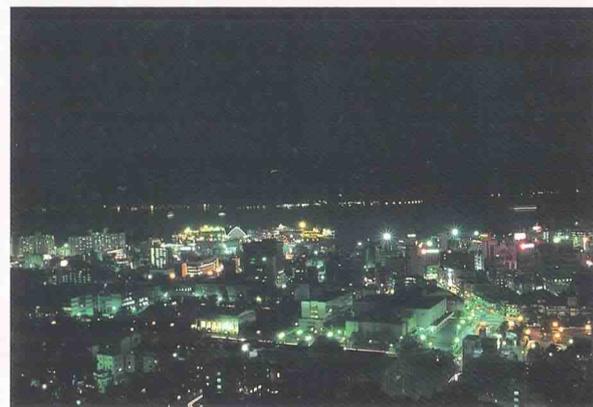
市民フォト鹿児島 (No.70)	2
わがまち上空散歩	2
【特集】鹿児島の街・街の色	3
クローズアップ ● 鎌田範政さん	12
ハロー鹿児島 ● 晏中華さん・高農さん	14
シティーアングル ● 思い出の渚	15
カメラトビックス	16
学校探訪 ● 東谷山小学校	18
わたしの好きな場所 ● 久保田喬彦さん	20
ふるさとの歴史探訪	22
● 縄文の心にせまる	22
あなたのフォトサロン ● 小坂邦光さん	24
よかタイム ● 窪田美行さん	26
かごしまの自然 ● 広木周辺	27
市民ギャラリー ● 吉野公民館	28
誌上「市営施設見学会」	28
● 高齢者福祉センターと次郎・高齢者デイサービスセンターと次郎	30
市立美術館	30
● 桜島、天保山、磯山図	31

● 表紙写真説明

さわやかな秋の風に誘われて、今年四月にオープンした、大迎町の都市農業センターに行ってきました。花園の一角にお弁当を広げ、色とりどりの草花を眺めながらのおしゃべりは、とっても楽しいものです。季節を感じながら、ゆったりとした一日を過ごさ。これって最高の贅沢ではないでしょうか。

モデルはミス鹿児島の松枝知子さんを中央に友人の鯉坂明子さん(左)と原園美智代さんです。

鹿児島島の街・街の色



市街地と桜島

ご覧になっている写真の中で、あなたの目にとまったのはどの写真ですか。

見慣れた街の風景も、時間の変化とともに
さまざまな色と表情を見せてくれます。

日ごろあまり気にすることのない「街の色」、
あなたの好きな「鹿児島島の街」って何色ですか。

【西鹿児島駅】

昨年6月19日にオープンした西鹿児島駅の新駅舎、赤い外壁と青い空、そして駅前の緑がコントラストを描き、旅行者に南国鹿児島を印象づけます。

デザインは特急「つばめ」などのデザインを手がけた水戸岡鋭治さん。外壁の赤は水戸岡さんが仙巖園（磯庭園）を訪れた際に目にとまった御殿の土壁の色。

新駅舎の「赤」は、島津家の「赤」に由来し、南国鹿児島をイメージしたものです。



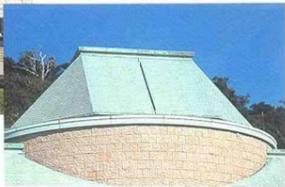
【市立美術館】

昭和60年に新装開館した市立美術館。城山の麓に位置することもあり、城山の緑とのバランスに気を配っています。

屋根は、城山の緑に埋没せず、かつその緑をイメージさせる緑青色。この色は屋根材の銅板が自然にさびることによって出されています。

外壁は、緑青色の補色である赤味を出すためにスペイン御影石を使っています。

美の殿堂である市立美術館。外壁や屋根の色もよく考えられています。



建物の色



【鴨池ニュータウン・県庁】

昭和47年鹿児島（鴨池）空港が移転した跡に、新しい街づくりが始まりました。そしてできたのが鴨池ニュータウンです。

鴨池ニュータウンの街の特色は、わが国で初めて積極的な色彩計画を取り入れたことです。建築主の協力のもと、ブロックごとに統一感のある色でまとめられています。

海側は、海の青さに対する白（薩摩焼の白に通じる）を使い、内陸部に入るにしたがって樹木の緑に調和する茶色やうす茶色（屋久杉の木肌の色などをイメージ）が多く見られます。

鴨池ニュータウンの一角に昨年10月完成した県庁舎、県内で一番高いビルで高さが93.1メートルあります。もちろん鴨池ニュータウンの色彩計画に沿った外壁の色をしており、うす茶色（丹色）の磁器質タイルを使用しています。



【繁華街の高層ビル】

繁華街にそびえ立つ高層ビル。高見馬場周辺を歩けば大きなビルを数多く目にします。

写真の左端に見えるのが鹿児島センタービル。昭和61年に完成したビルは、高さ58.9メートル。

外壁はベージュ系の萩焼タイル。落ち着いた色合いでちょっとおしゃれな雰囲気を漂わせています。

鹿児島センタービルの奥に見えるのが、昭和51年に完成した鹿児島中央ビル。高さ57メートルで、縦横ともに大きな造りの外壁は特製の赤茶色のタイル。どっしりしたビルによくマッチしています。

写真右に見えるのが鹿児島商工会議所ビル、通称AIMビル。平成2年に完成したビルは、高さ67.4メートル。外壁は低層階が大理石、中高層階は明るい水色のホーロー板。近未来の鹿児島をイメージさせるカラーです。

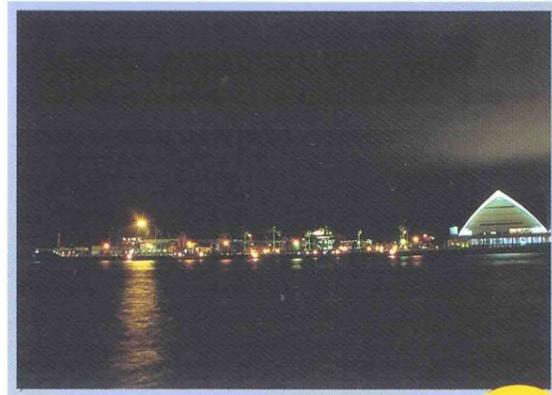
市内には約18万棟の建物があり、それぞれの建物の屋根や外壁には色がついています。そして、その色は季節や時間、天候、見る位置によって変化して見えます。一度は目にしたことのある写真の建物、皆さんの記憶の中にある色と比べてみてください。



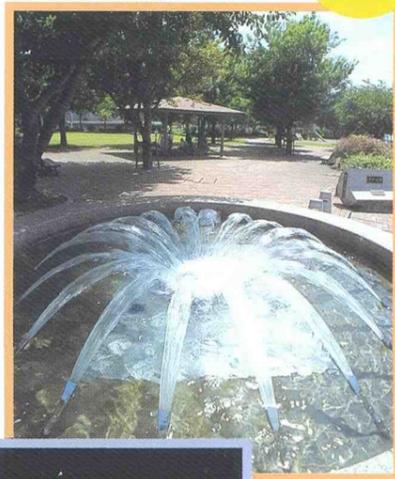
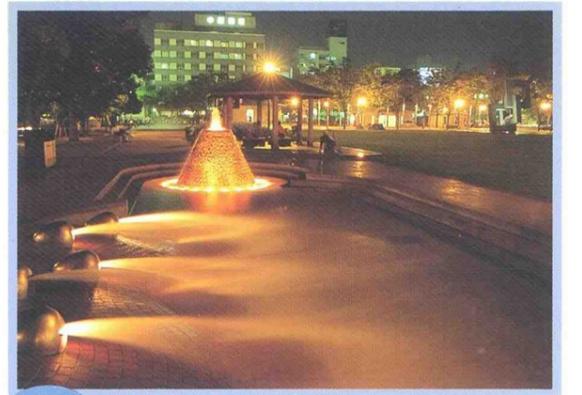
北ふ頭



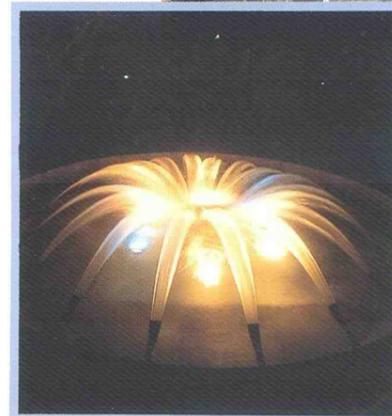
中央公園



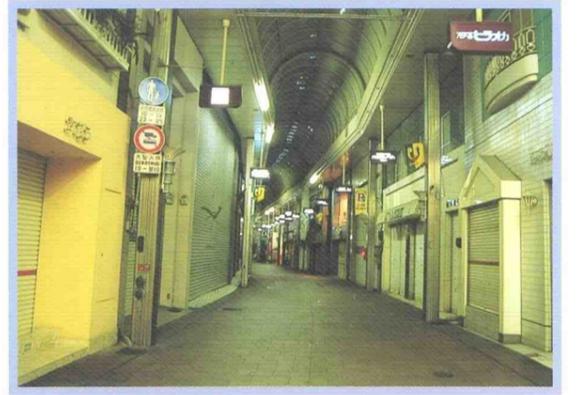
昼と夜



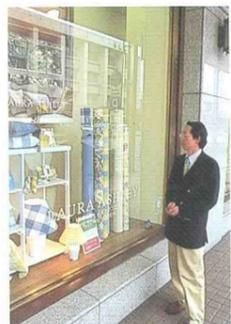
紫原平和公園



アーケード街



私の好きな街の色



始発電車は毎朝五時四十四分、交通局を出発します。すぐ次の電停ではもう、待っていらっしやるお客さんがいるんですよ。出発のときはまだ薄暗かった空が、だんだんと日が昇るにつれオレンジ色に染まっていきます。車窓から見える街並みも、オレンジ色の光がきらめいています。

早朝の車内は和やかな雰囲気です。皆さん、親しげにあいさつを交わっていらっしやいます。それを聞いていると、空の色のような温かな気持ち胸に広がり、新たな一日がさわやかに始まるのです。

練習場は大学構内の林の中。大学に入学以来一年半、緑に囲まれて練習しています。

弓を引くには、四十一ポンド（ボーリングのボール約三個分）の力が必要です。連続的に射るためには、地面にしっかりと踏ん張って肩の筋肉をフルに使うので、五十射もすると汗びっしょりになります。

練習の合間にちよつと一息。緑の木々をざわめかせてそよ風が吹き、張り詰めた気持ちをほっとさせてくれます。そうすると、「よし、もう1セット!」と弓を持ち直して練習再開です。

鹿児島島の街の風景、照明、建物の色は、自然の光、空の色などによって微妙に変化していると思います。季節が移り変わっても、南国の太陽、青い空、緑豊かな鹿児島は原色のイメージですね。

普段から、色彩や季節感、新鮮さを大切にしている仕事を進めています。文化が発展し、街には様々な色作り出されていますが、それはもとも自然の色なのです。アーケード街、公園など、自然と調和するようにコーディネートすることで色彩にも統一性が出てきます。そして人々の目にも優しく、安らぎを与えてくれると思います。



鹿児島市交通局
運輸技師
小西 徹郎さん



鹿児島経済大学
アーチェリー部
田中 修二さん



デパート 宣伝部
装飾課長
永野 光一さん

早朝のオレンジ色の街を
始発の市電は走る

緑の風の中で
アーチェリーにける青春

街角をコーディネートする
演出家

市電・市バスの色



現在も走り続ける600型。写真は昭和34年製造の601号



昭和40年代・50年代はすべてこのデザイン



2100型。写真はバス号
(平成3年製造)



最新型の9500型



市バスの新旧デザイン。



観光バス（市内定期観光や貸し切りに使用）



通勤、通学や買い物などに市民から親しまれている市電・市バス。一日に電車は約三万人、バスは約五万人の乗客を選び、市民生活になくてはならない交通機関として走り続けています。

車体の色やデザインも時代の変化や街の発展とともに変わってきました。

【電車】

昭和二十九年にそれまでの濃緑色から南国鹿児島にふさわしい色として、上部がクリーム色、下部が水色の明るい色調になりました。

昭和四十年には上部が黄色、屋根と下部が緑色に変わり、このデザインは約二十年間続きました。

昭和六十一年にはクリーム色にオレンジ色のラインが入ったデザインに変わり、現在も500型、600型、800型の三十両はこのデザインで走っています。

平成元年からは2100型の新形電車も導入され、白を基調としたボディに本市の姉妹・友好都市をイメージした色やデザインを入れたものが走っています。

さらに、平成七年からは9500型の新形電車も導入され、ワインレッドと白を基調にしたモダンなデザインで運行されています。

【バス】

昭和二十九年に上部がクリーム色、下部が薄緑色で前部の屋根に小豆色のアクセントを付けたデザインに変わり、このデザインの車両は現在でも六十七両が走っています。

平成二年には水色、白色、クリーム色の三色を基調とした新しいデザインを導入し、現在、市バスの約六十パーセントにあたる百一十両がこのデザインとなっています。

このほか、南国の明るさと強烈な陽光をイメージした観光バスや南国の赤い太陽と緑、海の青と白い雲をそれぞれモチーフにしたおしゃれなシテイビューは観光客に好評です。

ただ、せっかくのデザインなのですが、市電・市バスの車体広告は現在の交通局にとってなくてはならない収入源であり、オリジナルデザインそのままの車両はそう多くないようです。

鹿児島島の街・街の色

～市長に聞く～

鹿児島島の街の色をイメージすると、何色だと思いますか。

まず思い浮かぶのは、南国の空の明るい青、波きらめく錦江湾の深い青、そして公園や街路樹の力強い緑です。これらの色は澄んだ空気と太陽の光の強さ、そして温暖な気候がもたらしてくれる自然の恵みだと思います。

一日の中での色変化、どの色の街が好きですか。

夜明け前、朝焼け、日中、夕暮れ、夜にぎわい、それぞれに味わい深いものがあります。好きですが、中でも夜明け前から日の出へと続く色あいの変化が一番気に入っています。



赤崎義則鹿児島市長

一日の思いを内に秘めて、夜明けを待つひととき。桜島の東の空が徐々に赤く染まり、やがて顔を見せる太陽。力強い朝日は私たちに大いなる力、活力を与えてくれます。

街中で目にする色で、何か感じることはありませんか。

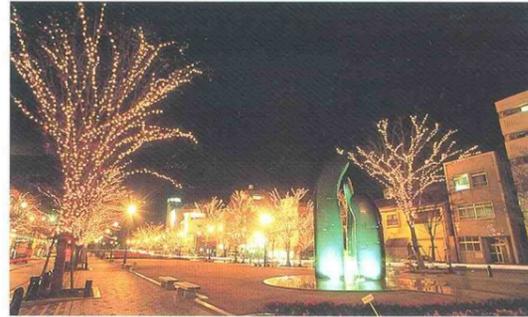
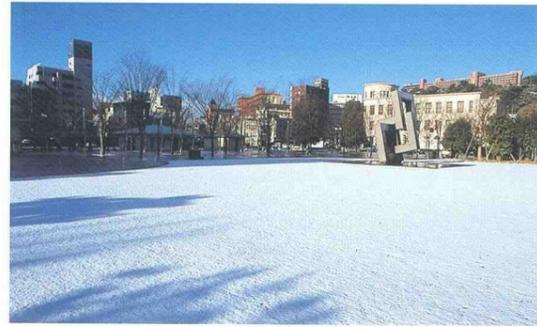
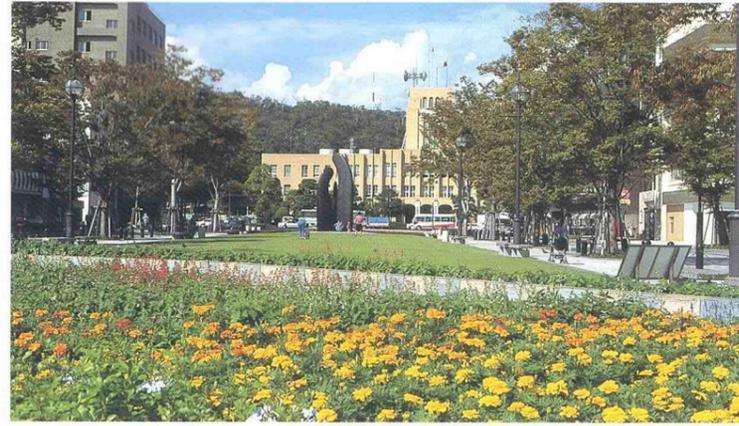
街に出かけてみると、全部で何色くらいあるのかわからないほどたくさん色を目にします。それぞれの色にはそれぞれの思いがあると思いますが、周りの環境や雰囲気とマッチし、その中で見る者を引きつけるものを見つけたときには、作者と気持ちが通じたようで、わくわくします。

最後に、鹿児島島の未来は何色ですか。

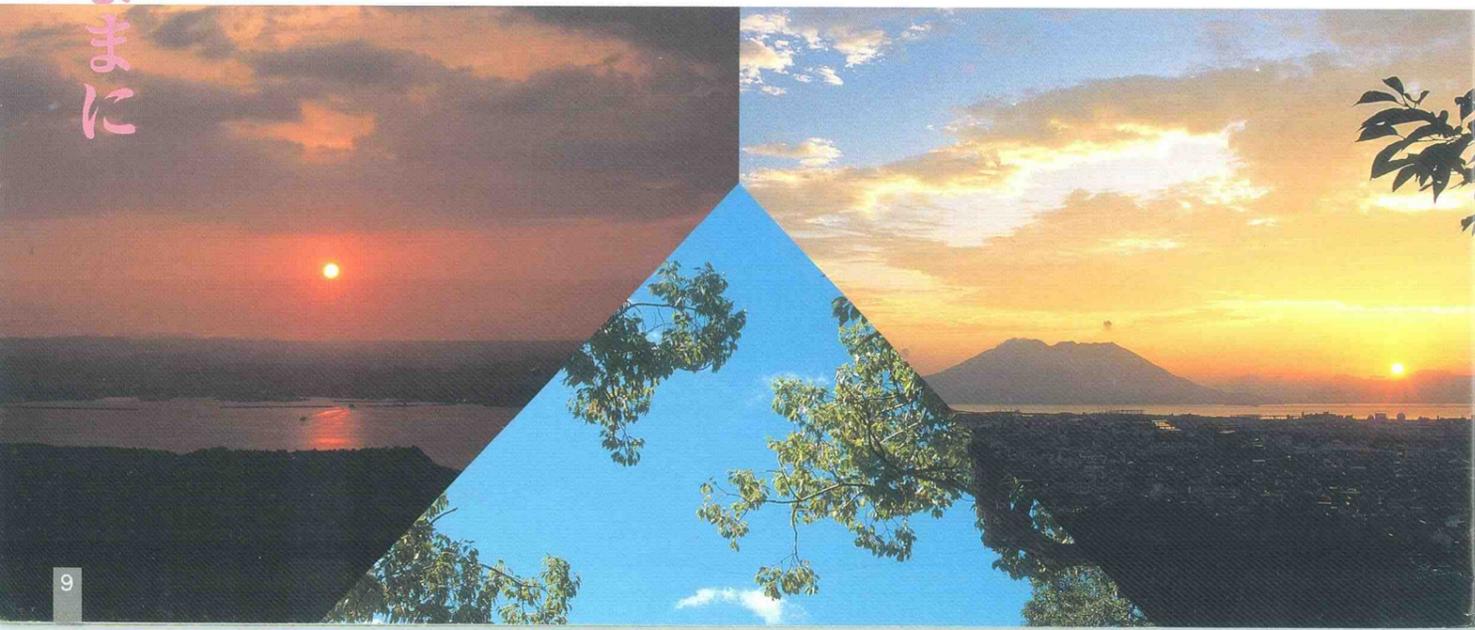
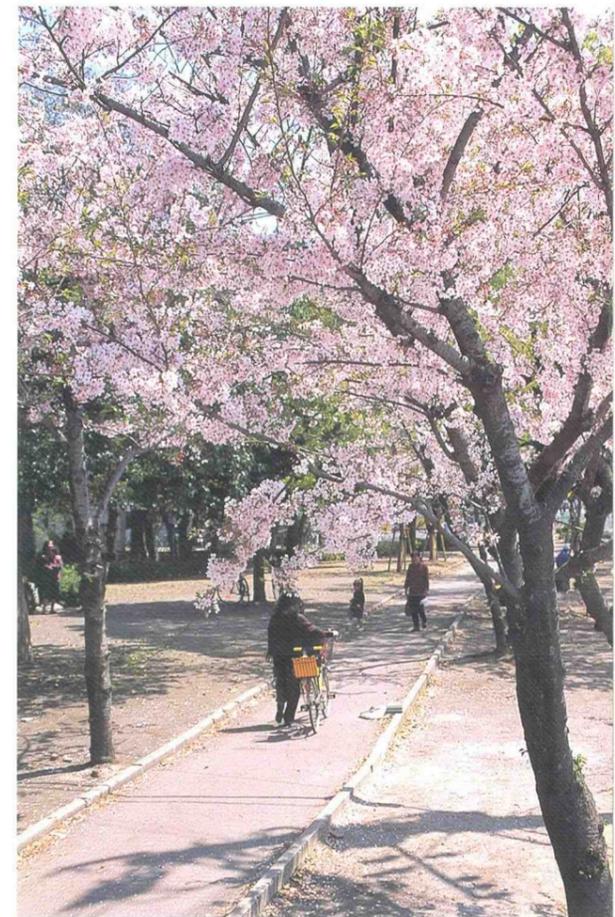
本市を訪れた外国の方と話をすると、鹿児島島の街はきれいだと、そして、人々の心が暖かいということをよくおっしゃいます。街の色というものは、単に目に見えるだけのものでなく、市民一人ひとりの心の中にある暖かい気持ちで印象づけられるものだと思います。

みんなが今の気持ちを大切に育てていけば、鹿児島島の未来は明るく暖かい色だと思います。

市民がつくる街の色・暖かい心そのままに



春夏秋冬 朝昼夜



あなたが好きな街の色、

何色ですか。



アップ CLOSEUP

市立少年合唱隊指揮者

かま た のり まさ
鎌田 範政さん

PROFILE

鹿児島大学教育学部音楽科卒業。昭和47～48年、オーストリア・ザルツブルク、モーツアルテウム音楽大学に留学。昭和60年、県芸術文化奨励賞（音楽部門）受賞。発足当時から、市立少年合唱隊指揮者として、指導にあっている。現在、鹿児島大学教育学部助教授。

音楽との出会いが、人との出会いが、
言葉は通じなくても「歌」で感動を分かち合える。
子供たちが楽しく歌うことが、私の楽しみなんです。

「音楽との出会いが、人との出会いは、不思議ですね。」
また、国際交流面でも大きな成果があった。

「ホームステイ先の家族と一緒に家庭演奏会を開いたり、心のもった交流もできました。」
特に印象に残っているのは、教会のミサの中で、ミサ曲を歌わせてもらったこと。

「ピアノと張り詰めた空気の中で一杯歌いました。ドイツの人々が心の拠り所としているミサに自分たちが参加させてもらえるという感動で、私も胸があふれる思いでした。」
この旅で鎌田さんは、いろいろなことを発見した。

「子供たちは、我々が及びもつかないほどの『感じる力』を持っていますね。一度発掘されれば、泉のように感情、感動があふれてくるんです。」
「また、同時に言葉は通じなくても、感動を分かち合える『音楽』のすばらしさをつくづく感じました。」
合唱隊ももう二十五年。しかし「その間大変だったことはない。」と鎌田さんは言い切る。

「毎年、新しい顔が入ってきて、泣いたり笑ったり。あつという間でした。子供たちが成長する姿を見ているとやめられないですね。」
メンバーは、小学校四年から中学校二年生までの異年齢集団。鎌田さんにこの頃のことを聞いてみた。

「子供の頃のぼくは、彼らのように積極的ではなかったですね（笑）。ただ、母が音楽が好きで、その世界にすんなり入っていきかけた。音楽を通してやつと友達ができたんですよ（笑）。」
だから、鎌田さんは合唱隊の子供たちには、助け合う気持ちを大事にしてほしいと思っている。それで、時には自分たちで練習をやらせたりする。

「見ていると、昨年までさわりで上級生を困らせていた子が、下級生を指導して『静かに！』なんてやっているんです。そして、自分たち上級生がしっかりしないとダメだ、なんて言うんですよ（笑）。」
合唱隊は、役割を与え、子供たちの自覚を育む場でもあるのだ。また、合唱隊の特徴は、創立以来の複数の指導者体制。現在、指揮者は鎌田さんと森永レイ子さんの二人。

「よく子供たちが、先生によって言うことが違って、口をとがらせることがあるんです。」
その時の鎌田さんの答えは決まっている。

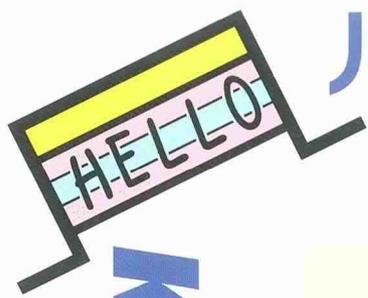
「授業では答えは一つ。しかし、音楽では人の数だけ答えがあるんだよ。」
いろんな考え方、感じ方があることを子供たちに分って欲しいと思っているのだ。

最後に鎌田さんに音楽のすばらしさを聞いた。

「音楽は楽しいもの。子供たちが楽しく歌うことが、私の楽しみでもあるんです。」
連日好評を博した合唱隊のヨーロッパの旅。合唱隊の優しい歌声は何の説明もなしに、現地の人々の共鳴を呼んだ。それは、鎌田さんの人柄や音楽への気持ちが世界中のどこでも通用する「本物」だったからではなからうか。

ヨーロッパの旅。教会でミサ曲を歌う。
(写真提供：南日本新聞社)

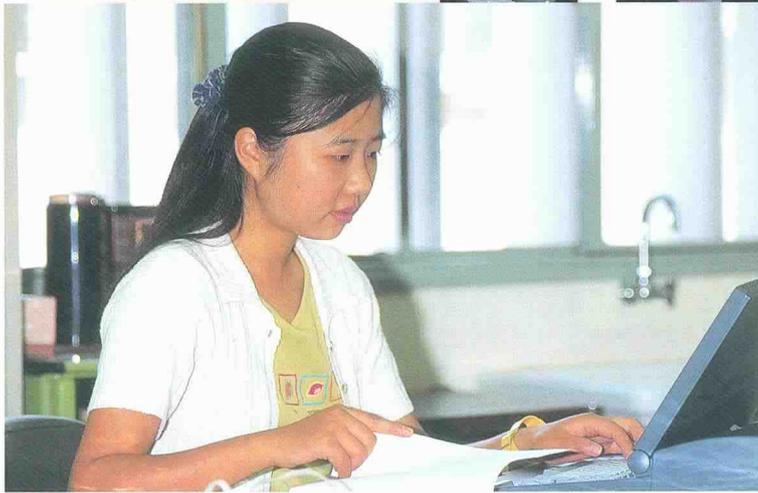
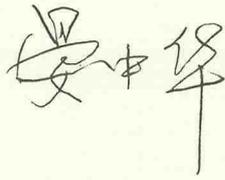




ハロー-鹿児島

KAGOSHIMA

晏 中華さん



高 晨さん



優しく微笑む女性二人。晏中華さんと高晨さん。
二人は、今年4月から1年間の予定で友好都市である中国長沙市からきた研修生です。
晏中華さんは、現在、鹿児島市水道局で、污水处理技術や管網処理技術などについて研修しています。長沙市では、節約用水事務所に勤務し、各企業や事務所の用水計画を検討、指導するのが主な仕事。鹿児島市の進んだ浄水技術や污水处理技術などを学び今後の仕事に生かしたいと張り切っています。

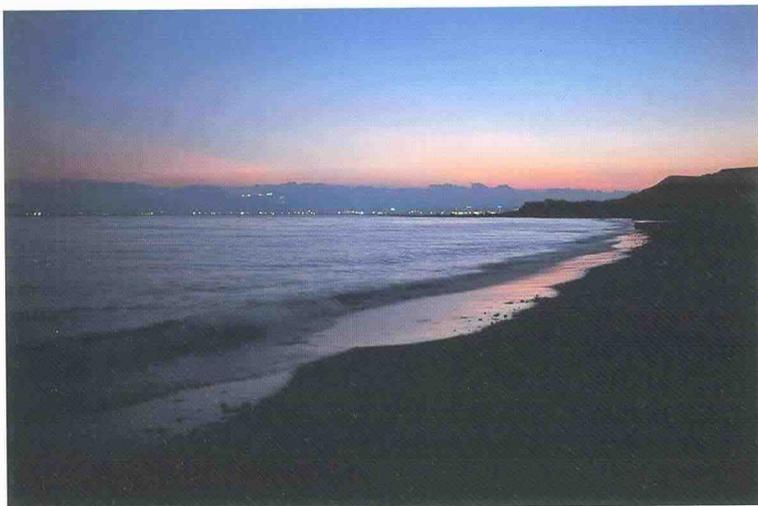
長沙市では、観光課にあたる旅游局に勤務する高晨さん。鹿児島市では、地方自治制度、市民サービスなど行政一般について研修しています。
鹿児島市の観光に対する取り組みや宣伝方法などを学び、長沙市の観光に役立てたいと意欲满满です。
長沙市には、海や火山がないため、二人とも錦江湾や雄大な桜島、美しい自然に感動している様子です。
中国のたまごのおかしを作ったり、アフターファイブにカラオケに行ったり毎日を楽しんで過ごしている晏さん。花が好きで日本の伝統文化である生け花を習いたいそうです。
「日本の桜を楽しみにしていたけれど、三月までなので満開の桜を見ることはできないかも」とちょっぴり残念そう。
日本の料理も口に合い、刺し身も大好物という高晨さん。六月灯で浴衣姿の女性に憧れて着てみたものの、意外に暑かったと笑って答えてくれました。休日は吉野公園にハイキングに行ったりと活動的に過ごしています。
「仕事以外にもいろいろなことを吸収し、人々と心の交流を深めたい」とにこやか。
長沙市と友好都市盟約を締結し今年で15周年を迎えます。これまで文化、スポーツ、経済、教育など幅広い分野で交流が行われてきました。明るく前向きな彼女達を先頭に、さらに友好のきずなを深めたいですね。

CITY

シティーアングル

ANGLE

「思い出の渚」





7月28日 都市農業センターにひまわり20万本
今年4月、犬迫町にオープンした都市農業センター。太陽に向かってまっすぐに伸びたひまわりが、花園一面に咲き乱れていました。
同センターでは、8月1日から5日まで花狩りを企画、多くの市民でにぎわいました。



8月14日 가고しま水族館入館者50万人達成
今年5月にオープンした「いおワールドかごしま水族館」の入館者が50万人に達し、50万人目の熊本県八代市の西崎裕太君にイルカのぬいぐるみなど記念品が贈られました。



8月30日～9月9日 第11回長才まつり
高齢社会について、各世代間のふれあいを通して考える長才まつりが開かれました。
今回のテーマは「積極人生」。シンポジウムやふれあいスポーツ教室、シルバーファッションショー、水前寺清子歌謡ショーなど多彩なイベントを通して、世代間の交流を図っていました。



外国人留学生への図書券及び共通回数乗車券贈呈式

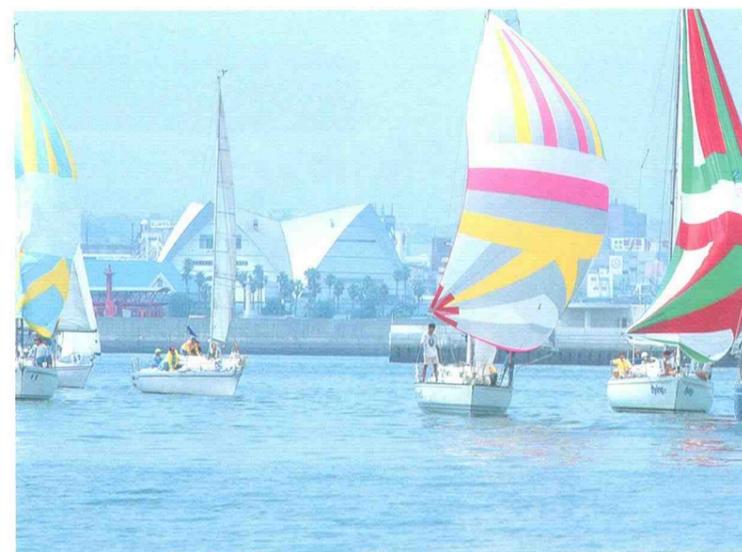


7月1日 外国人留学生へ図書券などを贈呈
鹿児島で学ぶ留学生を励まし、また、見聞を広めてもらうために、22カ国、155人の外国人留学生へ、図書券と共通回数乗車券を贈りました。
これからも多くの市民とふれあい、友好の絆を深めてください。

CAMERA カメラトピックス TOPICS

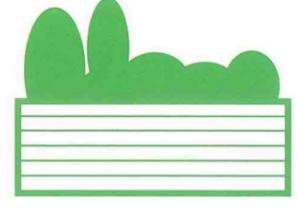


7月10日 出水市針原地区の土石流災害に消防応援隊派遣
出水市針原地区で10日未明に起きた大規模な土石流災害に、市消防局の応援隊が派遣されました。
現地では、土砂に埋もれた倒壊家屋での行方不明者の捜索にあたりました。



7月18日～23日 '97鹿児島カップ火山めぐりヨットレース
色とりどりの帆に風を受け、錦江湾を滑るように走るヨット。
今年で10回目を迎え、市民にもすっかりおなじみになった火山めぐりヨットレース。県内外から多くのヨットマン・ウーマンが鹿児島のに集い、熱戦を繰り広げました。

学校探訪



南風光る丘の上

子どもらの瞳も

輝いて

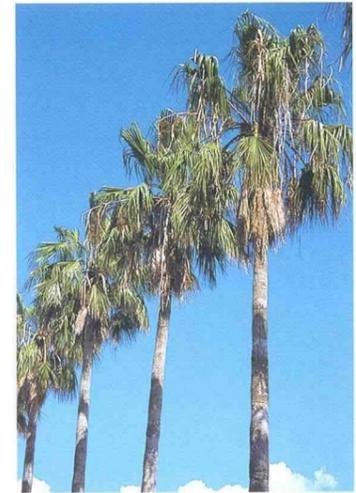
●創立 昭和44年
●児童数 1,046人
(平成9年9月1日現在)



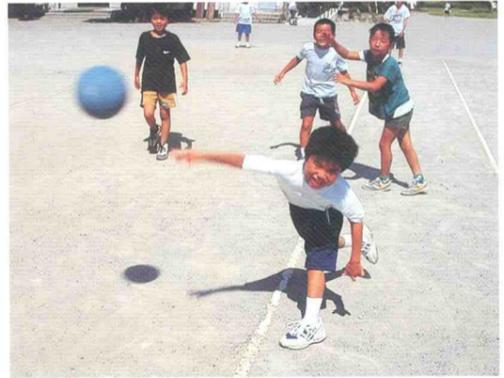
東谷山小学校



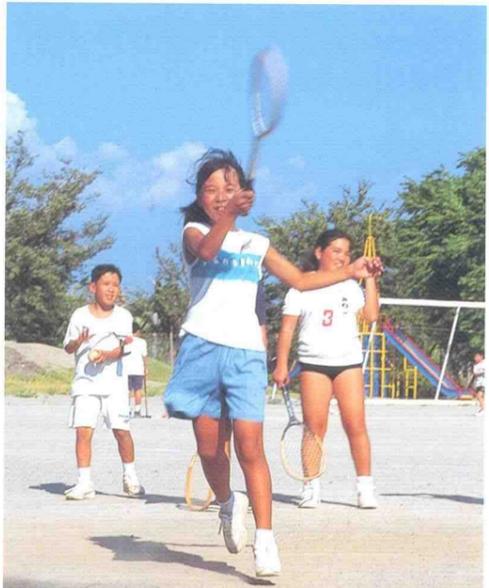
「がんばれ5組!、いけいけ5組!」～6年生水泳大会



青空にそびえるやしの木



昼休みはドッジボールに夢中



クラブ活動でのテニス～「ナイスレシーブ!」



図工の時間～未来への夢をこの船にのせて



食欲もりもり、おいしいね!

いとこたくさん 東谷山小学校

六年 諏訪 夏美

私たちの東谷山小学校は、三十一学級千四十六人という大きな学校です。

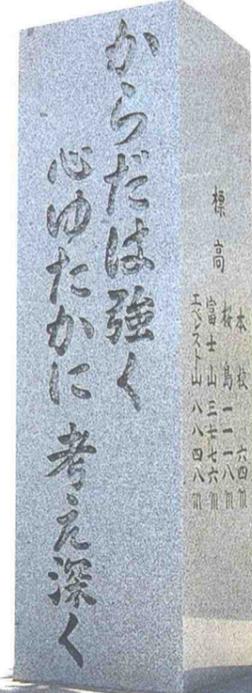
東谷山小には、第二の校歌といわれている、みんなが大好きな歌があります。それは、「学校坂道」という歌で、一年生も入学するとすぐに覚えて、全校でよく歌います。

なぜかという、みんな、毎朝坂を登って登校しなければいけないからです。東谷山小は小高い丘の上にあるのです。目の前に桜島があり、錦江湾や市街地を見下ろすこともできます。

私も毎朝坂を登るので、体力がつかまりました。でも、学校に着くころは、汗びっしょりです。そんなとき、校門にある「あいさつは、人の心をつなぐもの」という幕のとおり、生活委員の人が中心になってあいさつの声かけをしているので、「今日も楽しく、元気ががんばるぞ」という気持ちになります。

また、東谷山小には、緑がいっぱいです。春になると、広い運動場にあるたくさんの桜が咲いて、私たちの新学期をいわってくれます。花の後は、さくらんぼの実を一年生が食べたりします。赤くて甘いさくらんぼは、春の楽しみの一つです。

その他にもたくさん緑の木々があります。青空に向かってのびる木々に負けないように、私たちが元気にがんばっています。



からだは強く
心ゆたかに
考え深く



思い出は 木漏れ日のなかに

近代文学館・メルヘン館建設室
社会教育指導員
久保田 喬彦さん

わたしの好きな場所



鹿児島市の発展ぶりがよくわかります
～城山展望台にて



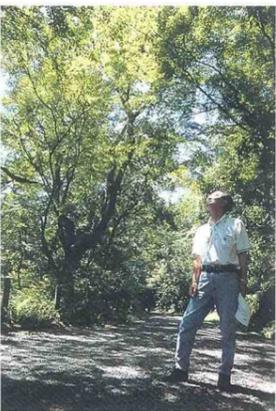
福昌寺跡周辺 (池之上町)

自宅近くのこの場所には、散歩によくやってくる。医師から勧められて、散歩するようになったんです。今では、福昌寺跡から玉龍高校の野球グラウンドに通じるこの坂を、汗をかきかき行き来するのがお気に入りの散歩コースなんです。
この墓碑などの史跡の中を歩くと、時の流れ、歴史を感じます。ここで、いろんな人が、いろんな思いを抱きながら時を過ごしたかと思うと、何か幻想的なものを感じますね。
また、ちょっと脇道に入ると緑が豊かで、まるで深山に入ってきたような気分にもなれる場所もあります。子どものころ、よく自分の基地をつくり、知らない場所を探検したりしましたよね。ここに来ると、幼いころの自分に返ったような気持ちになります。「自分だけの秘密の場所」を探し出したという感じがします。

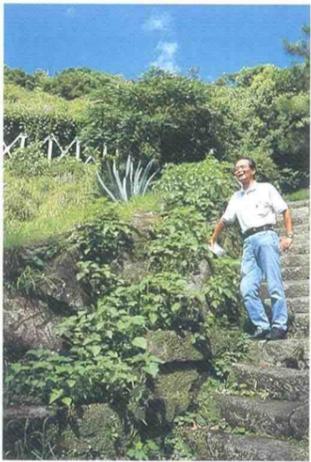
ここでは、春先には、山イチゴやツワブキが採れるんです。その時期になると、私も手に袋を下げて、歩道から山に分け入ります。山じゃなく丘登りという感じですね。斜面の傾斜が思ったより急な場所もあり、すべて落ちてそうになったりしたこともあります。帰るときにはズボンが真っ黒になり、家内にしかられることもよくあります。
この坂を登りきると、玉龍高校の野球グラウンドに着きます。そのグラウンド横から眺める市街地の風景もいけますよ。遠くに見える錦江湾から吹いてくる風が、ほのかな潮の匂いを運んでくれます。ここだけ時がゆっくりと流れている、そんな気分になりますね。

城山自然遊歩道 (城山町)

ここは、学生時代によく仲間と遊んだ場所です。当時、私は、県立大学の工学部、現在の鹿児島大学工学部に在学していました。伊敷に学校があったので、ここへは冷水を越えて来ていましたね。
ここに「造然亭」ってありました。貸し料亭があつて、そこで仲間と酒盛りをしました。鶏をつぶして焼きをつくり、焼酎は小川町のヤミ市で手に入れて。楽しかったですね。でも、焼酎が氷のうや水枕の中に入れられ売られていたのには、とても驚きました。また、この遊歩道の下、いま県立図書館がある場所には七高グラウンドがあり、そこが学生仲間の集いの場所となっていましたね。
この城山自然遊歩道は、ほどよい傾斜の坂道が続いていて、そのうえ私が散歩するにはちょうどいい距離の遊歩道なんです。晴れた日、木漏れ日のなかに展望台まで緑の木々を眺めながら散歩するのは、たいへん気持ちがいいものです。今も、昼休みに時々、散歩に来るんですよ。
そうそう、私が学生のころ、ここ城山展望台で西郷さんに似たおじさんが市街地の案内をしていたんです。その案内を聞きながら鹿児島市の発展ぶりに驚いたものです。今でもこの展望台に立つと、その日の驚きが走馬灯のようによみがえってきます。
しかし、五十五万都市の市街地のすぐ近くに、こんなにも自然豊かな場所があるなんて、たいへん貴重です。これからのことだと思います。
これからの、自然の息吹に触れながら、散歩を楽しみたいと思います。



もうすぐ紅葉が見られそうです
～城山自然遊歩道にて



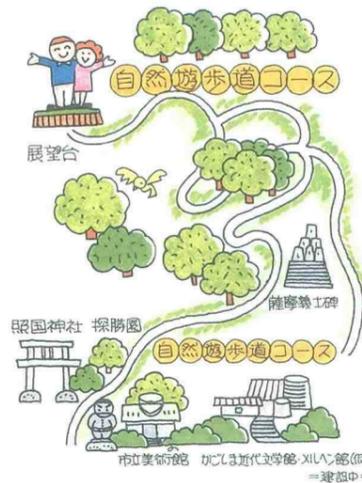
春には山イチゴなどが採れるんです
～福昌寺跡周辺にて



深山に入ってきたって感じがいいですね
～福昌寺跡周辺にて

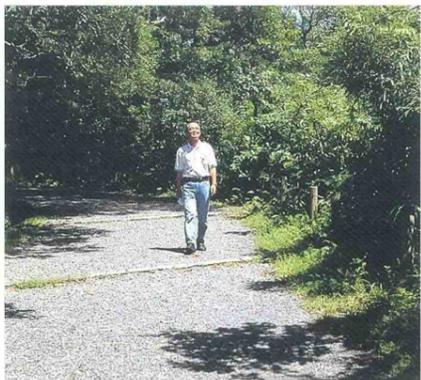


ここからの眺めもいいですよ
～玉龍高校の野球グラウンド横にて



取材メモ

久保田さんは、加治木高校から現在の鹿大工学部に進学。大学時代は、応用化学を専攻されました。卒業後は、南日本新聞社・鹿児島新報社で、計九年間記者として活躍されたあと、高校の教員の道へ。平成二年に退職されました。
現在は、市教育委員会の近代文学館・メルヘン館建設室で社会教育指導員として、館の建設に取り組んでいらっしやいます。「市民の方々、特に子どもたちの思い出になるような施設にしたいですね」と抱負を話してくださいました。
取材当日は残暑が厳しく、汗をいっぱいかきながらも、にこやかに取材に応じていただきました。
久保田さんの父、故椋鳩十さんには本コーナー(当時は「わたしの散歩道」)の第一回目に「ご登場いただきありがとうございます。初めの親子二代の登場となりました。住まいは池之上町。長野県出身。六十七歳。」



木漏れ日のなかを歩いて気持ちいいですね
～城山自然遊歩道にて

ふるさとの歴史探訪

◆縄文の心をさぐる

縄文の人々は何を願い、
どんなことに心を動かしたのか



胸に光る手づくりの勾玉

約五万年前にヨーロッパを中心に活動していた人類、ネアンデルタール人。彼らは当初野蛮な人種であると見られていた。

それを一変させたのが、イラクの山あいの洞窟での発見だった。ていねいに埋葬された遺体の周りから花粉が検出された。ノコギリソウ、ヤグルマソウ、タチアオイなど色とりどりの花が、死者を悼んで飾られていたのだ。しかも、これらの花は高度差で植生が異なるものもあり、そうとう苦勞して野山を歩き採取したものと思われる。

「惜しむ心、愛する心」
果たして現代人は彼らほど、深い心を持っていただろうか。

今号では、時期的にこのネアンデルタール人と現代人の中間に位置する縄文人の心に迫ってみたい。その中で、何か心の奥底でなつかしさと共感を、みなさんに感じていただければと思う。

土偶にこめられたメッセージとは？

いのち 生命

現在、話題沸騰の国分・上野原遺跡。多くの出土物の中に一体の土偶がある。約七千五百年前のもの。胸のふくらみが欠け落ちているところから女性像と見られている。

実際各地から出土している一部破損の土偶はほとんど女性像。なぜだろう。それは、女性が子どもを生むことと関係があるのではないかと思われている。女性の「生み出す力」は、当時おおいなる畏敬の念を持って見られていた。それ



女性像の土偶 ~上野原遺跡出土~



親子体験学習教室で勾玉づくり ~ふるさと考古歴史館~

物を採るか、心を採るか それが問題だ。

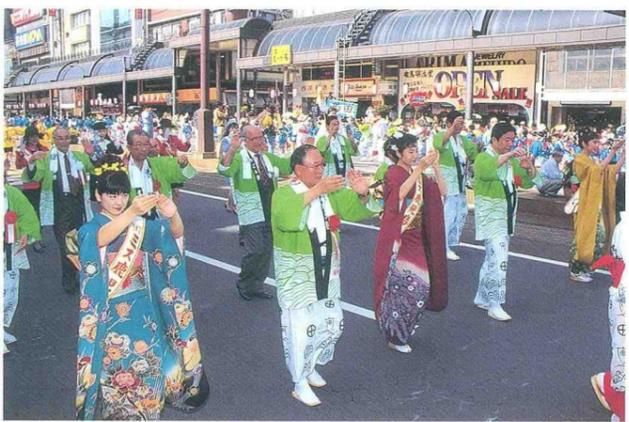
生産と祭り

環境保護。現在、さかんに議論の対象となっている問題。その問題がすでに縄文からあったらしいというから驚き。縄文早期から後期にかけて、祭りを中心とする装飾、祭祀、呪術は飛躍的に発展を遂げている。一方、食生活などは縄文期を通じてめざましい発展というのは見受けられない。縄文草早期の掃除山遺跡からすでに肉のくんせい炉が見つかっているが、その二千年後の上野原遺跡から見つかったのもほぼ同じもの。一方、上野原遺跡からは祭事をしたであろう大広場や大量の祭事石器が発見され、祭事面での発展ぶりをうかがわせる。

縄文人のエネルギーは、生産に向かわずに祭事に向かったのではないだろうか。

彼らの生産は特に狩猟など、一度狩り取ってしまったら、種の絶滅につながり、非常に微妙な自然界のバランスの上に立っていた。一途に生産性を追い求めることが、危険なことを彼らは知っていたのだ。

祭りを通して、自然神に伺いをたてる。それは決して野蛮なことではなく、ある意味では理にかなったことだったのだ。



南九州最大のお祭り「おはら祭」

心の宇宙

八百万（やおろず）の神という。彼らは自然界のあらゆるものに神（霊）を感じていた。当時の神はおそらく、現代の神より荒ぶる恐ろしいものであったらしい。

当時の祭りとは神を恐れ敬うことであつた。人の力ではいかんともしがたい、台風・豪雨などを鎮めるために、人々が一心に祈り、踊る。まさに、祭りが彼ら



日本最古のピラス ~上野原遺跡出土~ (実物は写真の約2倍)

なぜ、男性がおしゃれをするの？

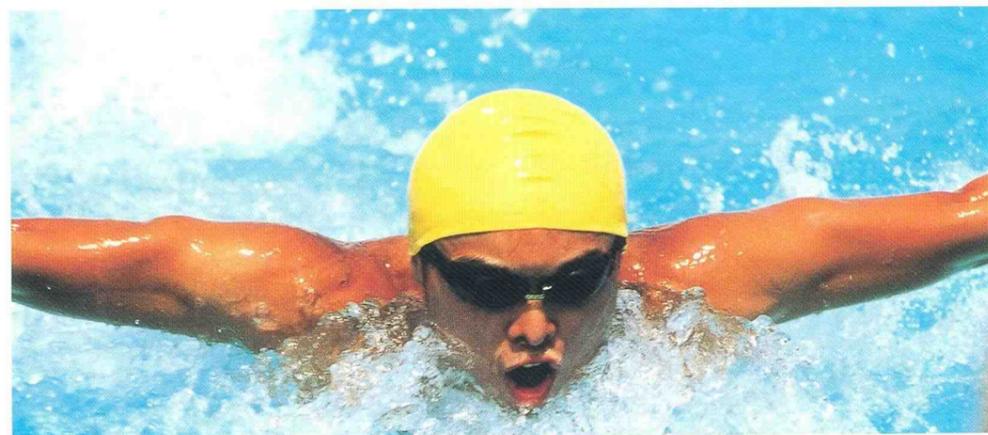
美意識

「美しく見せる。それは全男性の願い。」と言ったら、何を考えているの、と思う。しかし、縄文はどうだったんだろう。市内では草野貝塚を中心に多くの装身具が出土している。また、土偶に施された文様から人々が入れ墨をしていたことも分かっている。その多くがどうも男性らしい。

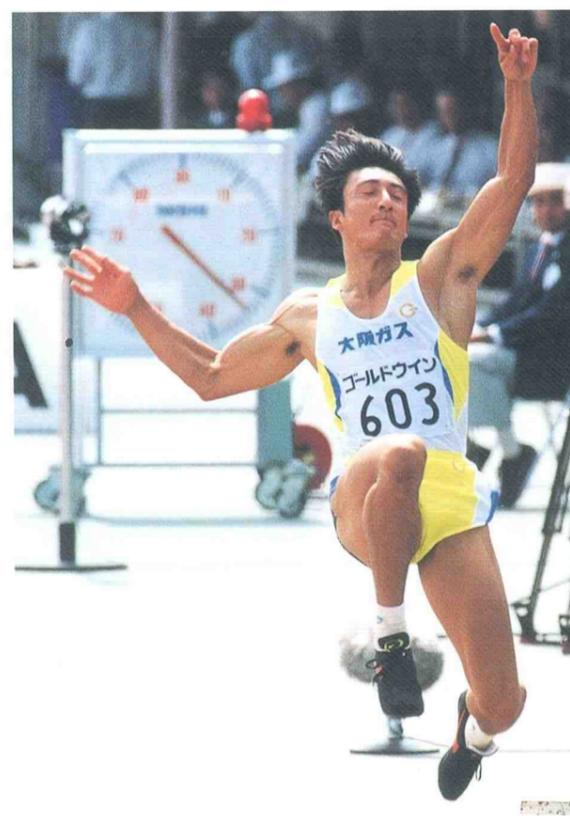
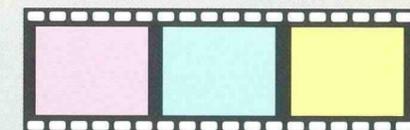
これは、従来、敵を脅したり、魔除けの目的ではないかと言われてきた。しかし、中には逆に美しい装身具も数多い。考えるヒントになるのは、当時の南日本は母系社会だったらしいこと。元祖女性は大陽だったというが、女性がしっかりとムラを守り、男性はすこしでも自分をよく見せて集団に加えてもらおうと思つたのではないかと推測も成り立つ。鹿児島は長く男尊女卑だったというのは、あながち我々の思い込み過ぎないのかも知れない。

がひいては、ものを治す力などにも結び付けて考えられていたのではないか。それで、病気の時に身代わりにと壊された霊験あらたかな女性の土偶が多く出るのは、ではないかと考えられている。おびただしい数の土偶の出土。それは、生きることが難しかった縄文の人々の苦

労を物語っている。生と死が日常生活のごく近くにあったのであろう。しかし、逆にだからこそ生命の大事さをよく知っていたのではないか。一生懸命作られた土偶を一気に壊す時の祈るような生への思いが、一万年近い時を経てなお強く迫ってくるのである。

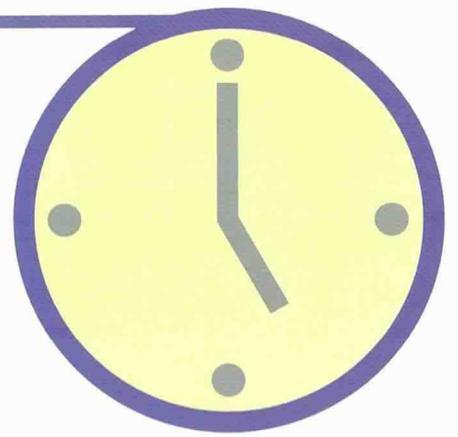


あなたの フォトサロン



写真と文 小坂 邦光さん
「スポーツ」

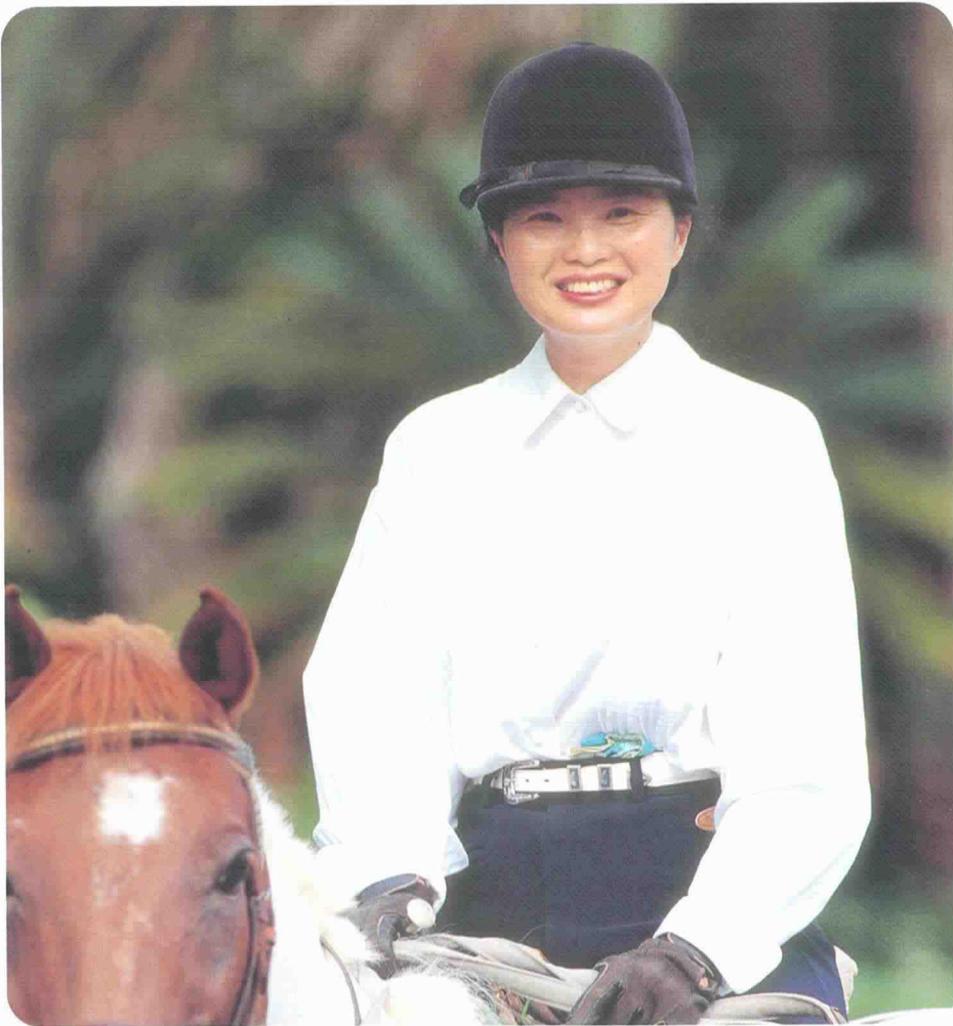
自分ではできないスポーツでもいいのです。
どんなスポーツにも、選手の動きや表情を追い
ながら、その瞬間に出会えたうれしさがあります。
だから私はシャッターを切るのです。



よかタイム

乗馬

窪田 美 行さん



よかタイム 7つの質問

Q1 乗馬を始めて何年ですか。

A1 十二年になります。大体、週一回のペースで練習しています。

Q2 きっかけは？

A2 満州の馬族を描いた「夕日と拳銃」というテレビドラマで夕日の中を馬に乗り駆けていくシーンがあり、それを見て乗馬に憧れるようになりました。

Q3 乗馬の魅力は？

A3 馬の上からの景色は新鮮で、現実とかけ離れている感じがします。また、駆けていると心に風が吹き抜けていくようでそれが魅力です。

Q4 馬との相性は？

A4 グッドです。(笑)でも、馬も性格、体格などさまざまで、技術も含めて、自分にあった馬を選ばなければなりません。

Q5 周りの反応は？

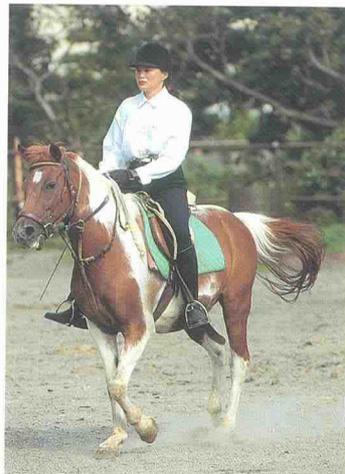
A5 やはり、みなさん驚きます。妹が、影響を受けて始めたいと言っています。

Q6 これから始める人へ一言

A6 馬と一体になって駆けていくと解放感があります。ストレス解消にもなりますよ。

Q7 これからやりたいことは？

A7 大会などに出場するつもりはありません。いつかモンゴルの大草原を夕日が地平線に沈むなかに思い切り走ってみたいです。



さっそうと馬にまたがり、馬場を闊歩していく窪田さん。馬は賢く、乗っている人を見極めるそうです。「とてもかわいいですが、何回乗っても怖いという気持ちがあり、いつもある程度緊張して取り組んでいます。」と真剣ながらも、優しくほえんで答えてくれました。夢を持ち続け、いつかモンゴルの大草原を馬と一緒に駆け抜けていく姿が、目に浮かぶようでした。

広木周辺にて

かごしまの
自然

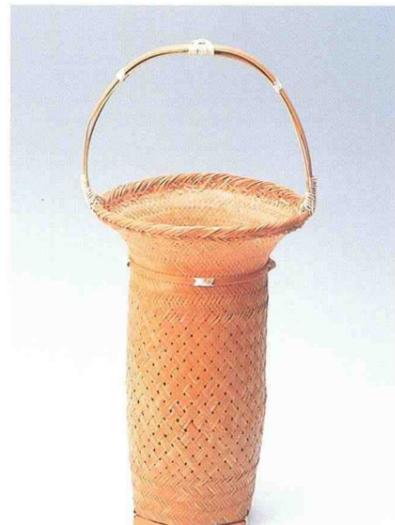




「輪弧返し縁盛籠」 富永ユキエさん



「盛籠」 諏訪下勝海さん



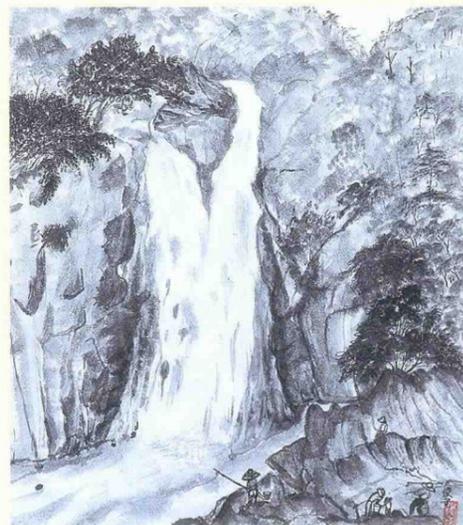
「六角網代花籠」 高橋駒二さん



「花紋底盛籠」 田中清則さん



「てっせん盛籠」 牧内 栄さん



「滝」 向吉俊子さん



「秋の訪れ」 伊地知キクエさん



「牧園連山」 伊地知正美さん



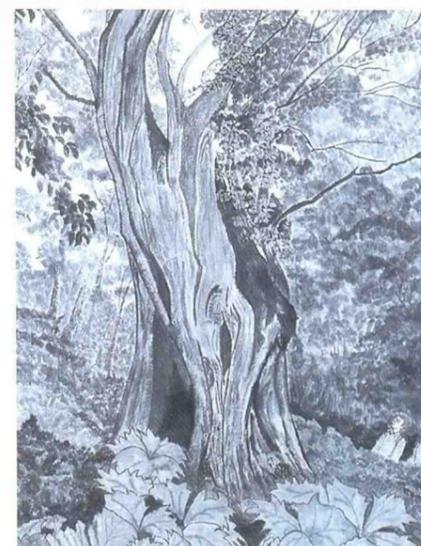
「名調子最上川」 瀬戸山弘さん



「餌付け」 遠矢ノブさん



「年輪」 松下フジエさん



「新緑」 日高良江さん

市民ギャラリー

GALLERY

吉野公民館・自主学習グループ

今回は吉野公民館の自主学習グループで、水墨画「吉水会」と竹工芸「吉野竹工芸同好会」の皆さんの作品をご紹介します。

水墨画「吉水会」は、上野譲先生のご指導のもと、第一・第三木曜日に活動しています。

墨の濃淡が練り広げる幽玄無限の世界。その魅力にとらわれたメンバーが集い続け、十二年がたちます。

男女関係なく冗談が飛び交い、笑いが絶えません。

「お互いの健康にも気を遣い合える仲間がいたから続けられたんです。」と会長さん。

互いの向上を励みにしながら、それぞれの個性を作品に発揮する皆さんの意欲は、いよいよ盛んです。

竹工芸「吉野竹工芸同好会」は、宮城英輔先生のご指導のもと、毎月第二・第四月曜日に活動しています。

竹林の多い吉野に発足して今年で十二年目になります。

幾種類もの手作りの竹ひこから編み出される精巧な文様。「手がかかった分だけ子どものようにかわいいですよ。」と会長さん。

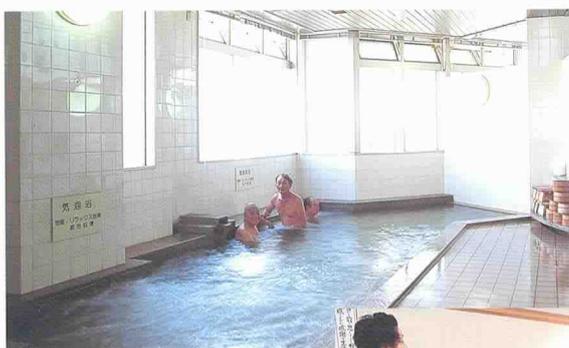
車座になって、一心に編む人あり、ひじ突き合わせ談笑を楽しみながらの人あり。夢中になれるものに出会えた喜びがあふれていました。

ふれあいの中で広がる新たな世界、皆さんの作品をどうぞご覧ください。

誌上 市営施設 見学会



高齢者福祉センター与次郎



広々とした浴室で温泉にゆったりと浸れる



娯楽室ではみんなでカラオケを楽しめる

高齢者デイサービスセンター与次郎



ボランティアの学生と楽しくアムバンド作り
～趣味創作活動～



デイサービスセンターはリフト付きバスで送迎してくれる

高齢者福祉センター与次郎 高齢者デイサービスセンター与次郎

～ふれあい 交流 健康づくり～

両センター利用案内

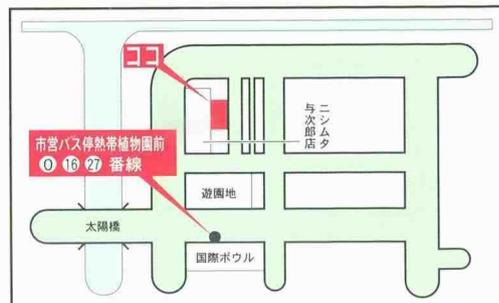
平成8年4月に与次郎1丁目にオープン。高齢者相互のふれあいと健康づくりをサポートする施設「高齢者福祉センター」と、体の弱い高齢者などの日常訓練やレクリエーションに利用される「高齢者デイサービスセンター」があります。福祉センターは65歳以上の市民ならどなたでも、デイサービスセンターはデイサービス事業の利用決定を受けた人であればご利用になれます。

高齢者福祉センター(2～5階)

■利用できる日と時間／毎週火曜日～日曜日の午前9時～午後5時
(毎週月曜日、祝日、年末年始は休み)

高齢者デイサービスセンター(1階)

■利用できる日と時間／毎週月曜日～土曜日の午前9時～午後5時
(毎週日曜日、祝日、年末年始は休み)



■両施設の問い合わせ
高齢者福祉センター与次郎 ☎250-3311

高齢者福祉センター 利用者“亀沢高伸さん”に聞く

きっかけ：退職後、家にいたのを友達に引っ張りだされました。
利 用：ビリヤードから始めて、カラオケ、卓球。お風呂に入った後、展望台で食事と多彩な半日コース。
出 合 い：なんといってもビリヤード。このセンターで初めて知りました。単なる玉突きなんです。やればやるほど難しい。でも角度をよんだりと頭を使うのでポケ防止にもなるし、ポケットに入った時の快感は忘れることができません。
魅 力：また新しく人と知り合えること。何物にも代えがたい宝物です。



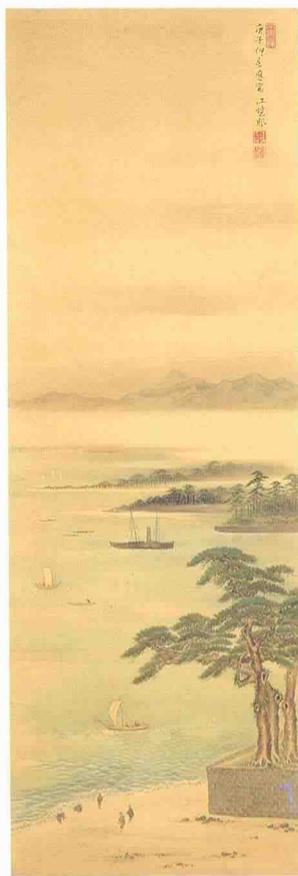
市立美術館

● 桜島・天保山・磯山図 ●

1900年（明治33年）

絹本着彩、三幅対

サイズ 各100.0×33.0cm



ぎょうほん
江口 暁帆

(1839~1921)

江口暁帆は、本名を親雄と言う。暁畔、暁颯とも号した。天保10年、鹿児島に生まれた狩野派の絵師である。幕末期に活躍した薩摩藩の御用絵師、佐多椿齋（1817~1891）について学んでいる。

狩野派は、組織の頂点をなす4つの奥絵師と10数軒の表絵師、さらに地方の大名御抱えになる絵師に至るまで、強い結束力で結ばれた江戸期最大の画派である。そこに学んだ絵師は実に膨大な数にのぼるため、狩野派の全体像は未だ正確に把握されていない。

暁帆は、全国的には、ほとんど無名に近い絵師であるが、絵の技量は高いものを持っている。師の椿齋は、薩摩の絵師馬場伊歳門人であり、伊歳は奥絵師の一つ木挽町狩野家8代当主、伊川院栄信の門人である。こうして系譜をたどると、狩野派の中における暁帆の位置を確認することができる。

暁帆の経歴は、詳らかではない。鹿児島市西田町に住んでいたが、大正10年3月18日に83歳で没した。

◎ 作品解説

本作品は、明治三十三年に描かれた三幅からなる錦江湾の実景図である。

まず、中幅には桜島が配されている。南岳からは薄く噴煙がたなびいており、海上には帆船が行き交っている。大正三年の大爆発以前の景色であるため、島鳥が見える。そして、桜島の右後方には高隈山系が連なっている。

右幅は天保山の風景である。沿岸には、多くの松が生い茂り砂浜には潮干狩りに興じている人物が小さく描かれている。遠く画面上方には、開閉岳の姿が見える。

左幅は、磯の海岸風景である。手前左方に見えるのは琉球松であろう。磯沿岸の曲がりくねった道沿いには竹林が見られ、遠景には霧島連山が配されている。

このように本作品は桜島を中心にして、薩摩半島の北から南までの広大な風景を三幅の掛け軸で見事に表現している。縦に細長いという画面の特性が、空間の奥行きを表すのにうまく用いられているのである。暁帆は、狩野派の絵師であるが、このような遠近表現に西洋写実画法からの影響を見ることが出来る。

（学芸係長 山西健夫）

平成10年1月から

～混ぜればごみ 分ければ資源～

家庭から出されるごみのリサイクル量を飛躍的に増やし、ごみの減量化と資源化をさらに推進します。



の分別収集を 開始!!

鹿児島市では、平成10年1月から「もやせないごみ」を各家庭で「缶とびん」と「その他のもやせないごみ」に分別し、出していただくこととなります。現行、月4回の「もやせないごみの日」のうち2回が「缶とびんの日」になります。

缶とびんの分別のしかたQ&A

Q1 すべての缶とびんが分別の対象なの？

A1 いいえ。飲み物や食べ物が入っていた使い捨ての缶とびんに限ります。スプレー缶や簡易ガスボンベ、化粧びんなどは、これまでどおり「もやせないごみの日」に出してください。また、ビールびんや一升びんなど繰り返し使用できるびんは、これまでどおり酒屋などで引き取ってもらうか、地域で行われる資源ごみ回収に出してください。



ストッピーくん

Q2 どのようにして出せばいいの？

A2 缶とびんは、中をからにして、簡単に水洗いしてください。灰皿に使用したものは、リサイクルの障害になるので、「もやせないごみの日」に出してください。また、びんの栓、ふた、キャップをはずしてください。ラベルは付いたままでも構いません。缶とびんは、一緒に透明ごみ袋へ入れて出してください。



ダイエットちゃん

市民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。

清掃部管理課ごみ減量係 ☎099-224-1111 内線2719